

令和6年度
アーティスト移住・定住促進事業事業
活動統括報告書(抜粋)
(活動期間:2024年4月～2025年3月)

一般社団法人葛力創造舎
作成日:2025年3月31日

目次

1 はじめに

- ・Katsurao Collective(カツラオコレクティブ)名称の利用について

2 委託業務の概要および成果

3 事業成果の推移

- ・事業成果の推移
- ・その他、広報掲載の実績
- ・村内施設の利用状況の推移
- ・インターネット上の検索ページ数の推移
- ・アンケートの集計
- ・来場者アンケート(自由記述)

4 24年度事業成果

- (1)アーティストインレジデンス事業
- (2)アーティスト・クリエイター等の活動を支援する体制整備
- (3)事業の周知、広報活動について
- (4)移住・定住にむけた支援

5 事業の成果および運営の課題

1 はじめに

本報告書は、2024年度に福島県双葉郡葛尾村で実施したアーティスト・移住定住事業の活動をまとめたものです。2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う津波により、福島第一原子力発電所で発生した原子力事故の影響により、葛尾村の全村民は村外に避難を余儀なくされました。2016年6月に帰還困難区域を除いて避難指示が解除され、2022年6月には特定復興再生拠点区域の避難指示が解除になりました。東日本大震災による原発事故の影響は村の人々の生活を大きく変えました。12年経った現在もその余波は大きく、村に戻ることができない人々も多く存在しています。一方で、多くの研究者や若者が引き寄せられるようにこの地に集まってきました。

本事業では、アーティストやクリエイターの地域での活動をサポートすることを通じて、村に眠る資源や魅力を発掘します。当活動は全国でも珍しい、アートやクリエイティブを活用した被災地での移住促進事業として、また日本でも有数の質の高いアート活動として、全国的に高い評価をいただいています。当地での活動をきっかけとして浜通りの被災地全域にアーティストやクリエイターによる活動が広がりつつあります。創造性を起点にした、人の心に寄り添った復興の新たな形を葛尾村が牽引し、全国に示しています。

「Katsurao AIR」(アーティストインレジデンス事業)では、地域にアーティスト・クリエイターを受け入れ、彼らの視点から地域の魅力の発掘と調査、PRを行いました。「かつらお企画室」(ワークショップ事業)では、継続的なワークショップの開催を通じ、移住定住に向けて地域の魅力に触れる機会を創出するとともに、村内外の人材の交流の場を作り出しました。ほかにもアーティスト・クリエイターと一緒に活動できるスタジオ整備、コワーキングスペース運営など、さまざまな企画・取り組みを通じ、地域のイノベーター・アーリーアダプターとしてアーティスト・クリエイターを地域へ招聘することで、「自分らしい生き方」を求める移住希望者へ向けたPRを行い、創造力を基点にした地域コミュニティの創出、移住者の増加、関係人口の増加を目指しています。

本報告書の作成にあたり、本事業に参加いただいたアーティスト、クリエイターの皆様、事業運営にご協力いただいた全ての皆様に、心よりお礼申し上げます。

事業統括 森健太郎

Katsurao Collective(カツラオコレクティブ)名称の利用について

現代アートが社会での実践を展開し、アートと社会との接点が深まる現代において、「アーティスト・コレクティブ」(※)の存在はますます重要になってきています。コレクティブという枠組みは、アート活動を個人主義的な創作活動の枠から解き放ち、より多様でフレキシブルなアートの形を社会へと提示します。多様な価値観を持ちながら、創造性という価値でつながり一緒に活動を始める。Katsurao Collectiveは、この地でそのようなコレクティブとなることを目指すプロジェクト名であり、創造性という価値でつながる共同体の名前として設定しました。アーティスト・クリエイターへの本事業のPRのイメージ戦略として、本事業を紹介する際の名称として使用しました。

※共通の目標を達成するために活動するアーティストによって形成された集団

2 委託業務の概要および成果

仕様書に則り以下の活動を行った。

(1)アーティスト・イン・レジデンス事業	
ア「葛尾らしい」地域資源を発掘・提供し、その魅力を発信してくれるアーティスト・クリエイターを呼び込み、村内の活動を支援する。(年間8組以上、1組 14日～60日程度)	8名の活動を支援
イ 令和6年度に呼び込んだアーティストが村内で活動した内容及び、令和4年度、令和5年度にKatsuraoAIRプログラムで滞在した以下のアーティストの作品等を発表するイベントを企画・運営する。(村内4回以上、首都圏および県外で2回以上)	・村内13回、都内2回のイベントを実施 ・イベント来場者累計:5303名
ウ 呼び込んだアーティストが村内で活動しつつ、地域住民等と交流できる拠点を確保し交流イベントを実施する。(月1回程度)	11回実施
エ 地方活性の政策として、若年層への支援や方策が不可欠なため、専門学生、大学生、大学院生、卒業後3年以内のアーティスト・クリエイターに向けた地域滞在プログラムを実施、地域との交流を促進するプログラム並びに成果報告展を村内で実施する。(年間6名以上)	7名の活動を実施
オ 令和4年度、令和5年度にKatsurao AIRプログラムで滞在したアーティスト及び令和6年度に呼び込んだアーティスト等と協議し、村の地域資源を活用した作品制作を支援する。(4作品以上)	4作家、4点の作品の制作を支援
カ 令和4年度、令和5年度に作成された作品をアーティスト・クリエイターと協議しながら、村の地域資源を活用して制作された作品の管理保管を行う。	随時実施
(2) アーティスト・クリエイター等の活動を支援する体制整備	
ア 県外のアーティスト・クリエイターが村に愛着を持ち、移住につなげるための活動拠点の運用を行う。(コワーキングスペース、テレワークスペース、アーカイブスペース、交流スペース、制作スタジオの提供等)	・コワーキング(テレワーク)スペース利用者:285名 ・かつらお企画室利用:237名 ・スタジオ利用:25名
イ 村外のアーティストが「葛尾らしい」地域資源を活用し、地域住民と関係性を深められるワークショップを企画・運営する。(6回以上)	・6回実施 ・来場者累計:133名
ウ 県外の移住ターゲット層が葛尾村への移住に興味を持ってもらうため、首都圏等で「葛尾らしい」地域資源を活用したワークショップを企画・運営する。(4回以上)	・4回実施 ・来場者累計:99名

エ アーティスト・クリエイターを村民が自主的・主体的に受け入れる村内体制強化を支援する。	せせらぎ荘、あぜりあ、役場、学校ほか村内施設と連携しての事業を実施
オ 村での宿泊・滞在場所、住民等との取次ぎ等の活動を支援する。	随時実施
(3)事業の周知、広報活動	
ア 村及び本事業を村外に周知するため、チラシやポスター、活動をまとめた報告書等を作成し、配布する。	・チラシ配布数:22970件 (2025年3月10日時点)
イ 本事業専用のSNSを管理、運営及び記事の作成、投稿を行う。	・Facebookフォロワー:310 ・Facebookリーチ数:21979 ・Instagramフォロワー:631 ・Instagramリーチ数:14950 ・Xフォロワー:112 ・Xインプレッション:42564 (2025年3月10日時点)
(4)移住・定住に向けた支援	
ア 移住や訪問を希望するアーティスト・クリエイターへのヒアリング及び地域とのマッチング等の支援を行う。	83名の対応を実施
イ 村に興味を持ったアーティスト等に対して移住等に関する調査を行う。	アンケートを取得し分析を行う
(5)関係機関や関係団体等との連携	
ア 葛尾村の移住担当課をはじめ、住まい、コミュニティ等に関する部署と連携を図る。	随時実施
イ ふくしま12市町村移住支援センター及び福が満開、福しま暮らし情報センター等と連携を図る。	随時実施
ウ 村内で移住・定住推進に取り組む関係団体と以下の業務について連携を図る。 (ア) 関係団体への移住・定住に関する情報提供 (イ) 関係団体の移住に関する取組に関する情報発信 (ウ) 関係団体との連携による移住者等への相談対応 (エ) 関係団体の移住イベント等への参加	随時実施

3 事業成果の推移

事業成果の推移

※2021年度は実施のための事前調査を実施

	2022年 (1年目)	2023年 (2年目)	2024年 (本年度)	2023 →2024増加率
視察・滞在・短期滞在	未集計	62名	83名	133%

	2022年 (1年目)	2023年 (2年目)	2024年 (本年度)	2022(2023) →2024増加率 (※備考)
広報件数	4,253件	10,269件	22,970件	540%
FBフォロワー数	—	246	310	124%
FBリーチ数	14,111件	35,032件	21,979件	155%
インスタグラム フォロワー数	—	371	631	170%
インスタグラム リーチ数	4,020件	6730件	14,950件	372%
Xフォロワー数	—	62	112	181%
Xインプレッション 数	—	24,986件	42,564件	170%

	2022年 (1年目)	2023年 (2年目)	2024年 (本年度)	2022(2023) →2024増加率 (※備考)
AIR応募アーティスト数	—	14名	36名	※2025年参考値 (56名)
AIR活動アーティスト数	6名	10名	15名 (招聘2名、一般6名、学生7名)	—
AIRアーティスト平均滞在日数	27日	27日 (公募のみ:24日)	49日 (公募のみ:38日)	181%
AIRイベント実施数	10回 (村内)	15回 (村内14回、都内1回実施)	14回 (村内12回、都内PRイベント2回)	—
AIRイベント来場者数	4105名	10326名	5304名 (村内イベント)	129%

			3652名、都内PRイベント1565名、学生プログラム87名)	
村内作品制作数	—	10作品(7作家)	4作品(4作家)	—
ワークショップ講師	8名	8名	6名	—
ワークショップ実施数	6回	16回 (村内14回、村外2回)	10回 (村内6回、村外4回)	
その他関連イベント(実施協力含む)	5回	2回	7回	—
ワークショップ来場者数	67人	816人	298人 (村内133人、村外99人)	446%
イベント来場者の中で、初めて来訪した人の割合	33.3%	57.9%	村内イベント: 23.8% 県外イベント: 76.5%	—
ヒアリング、マッチング、村内案内件数	34名	79名	83名	↑2.4倍
コワーキングスペース利用者数	117人	464人	284人	247%
その他、自主的に地元で活動したアーティスト	—	9名	25名	↑2.7倍
かつらお企画室利用者数(累計)	—	181名	118人	—
関係人口:積極的関与(移住センター集計を含む数値)	—	174名 (188名)	256名 (268名)	147% (142%) (2023年度比)
関係人口:関心人数(移住センター集計を含む数値)	—	646名 (688名)	1010名 (1462名)	156% (212.5%) (2023年度比)
交流拠点の活用	—	—	49名、507日(累計)	—

その他、広報掲載の実績

関係人口

本事業を通じて、256人の関係人口を作り出した。
(取り組みに関心のある人数の総数:1,010人)

マスメディア掲載

福島放送「シェア！」(6/24)
福島放送「シェア！」(7/5)
福島テレビ「サタふく」(7/13)
ラジオ福島「ORANGE TIME」(7/18,11/22,2/28)
FMうしくうれしく放送(11/15)
河北新報(1/15)

Webサイト掲載

こんにちはかつらお

ふくしまの旅(AIR活動報告会 vol.1&2、Katsurao Collective 2024 活動報告展)

未来ワークふくしま

(AIR活動報告会 vol.1&2、ART WEEK at Impact HUB Tokyo、渋谷ヒカリエ「ひかりをむすんで」、記事「村の風景をつくる暮らしを。居住人口463人の葛尾村で大山里奈さんがカフェを営む理由」にてKatsurao Collectiveの紹介)

アートマネジメントに関する総合情報サイト ネットTAM

(AIR活動報告会 vol.1&2、ART WEEK at Impact HUB Tokyo、渋谷ヒカリエ「ひかりをむすんで」、Katsurao Collective 2024 活動報告展)

日本全国のアーティスト・イン・レジデンス総合サイト AIR_J

(AIR活動報告会 vol.1&2、ART WEEK at Impact HUB Tokyo、渋谷ヒカリエ「ひかりをむすんで」、Katsurao Collective 2024 活動報告展)

福島相双復興推進機構 公式noteマガジン「ふくしま12市町村の“まちづくり”まとめ」

(Katsurao Collective 公式note記事「Katsurao AIR アーティストインタビュー vol.7 大川友希さん(前編)」掲載)

福島ではたらく、移住きっかけマガジン HOOK

(AIR活動報告会 vol.2、渋谷ヒカリエ「ひかりをむすんで」)

greenz.jp(記事「村の風景をつくる暮らしを。居住人口463人の葛尾村で大山里奈さんがカフェを営む理由」にてKatsurao Collectiveの紹介)

中之条ビエンナーレ公式ウェブサイト(ART WEEK at Impact HUB Tokyo、渋谷ヒカリエ「ひかりをむすんで」)

冊子掲載

りりりのり 第4号

報告書冊子収蔵

船引駅構内 自由閲覧図書コーナー
東日本大震災・原子力災害伝承館 資料閲覧室
ほか、全国各地のイベント等にて配布

村内施設の利用状況の推移

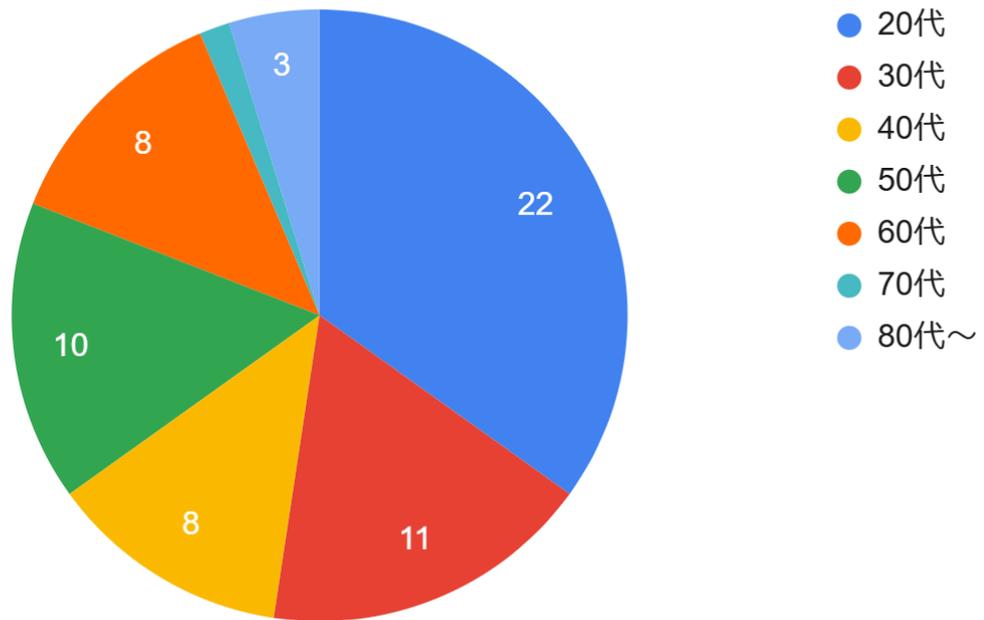
	2021 (準備年)	2022 (1年目)	2023 (2年目)	2024 (本年度)	上昇率 (21→24)
復興交流館あぜりあ (来館者)	19547	24973	24638	23167 (R7.2末現在)	↑118.5%
せせらぎ荘 (利用者)	10194	12590	12506	13439 (R7.2末現在)	↑131.8%
移住センター (相談件数)	—	82	84	94	↑114.6%
移住センター (お試し住宅利用者)	—	11	30	14 (※2024年から、弊社保有施設での滞在受け入れを開始、49名)	—

インターネット上の検索ページ数の推移 (Yahoo Japanページ検索)

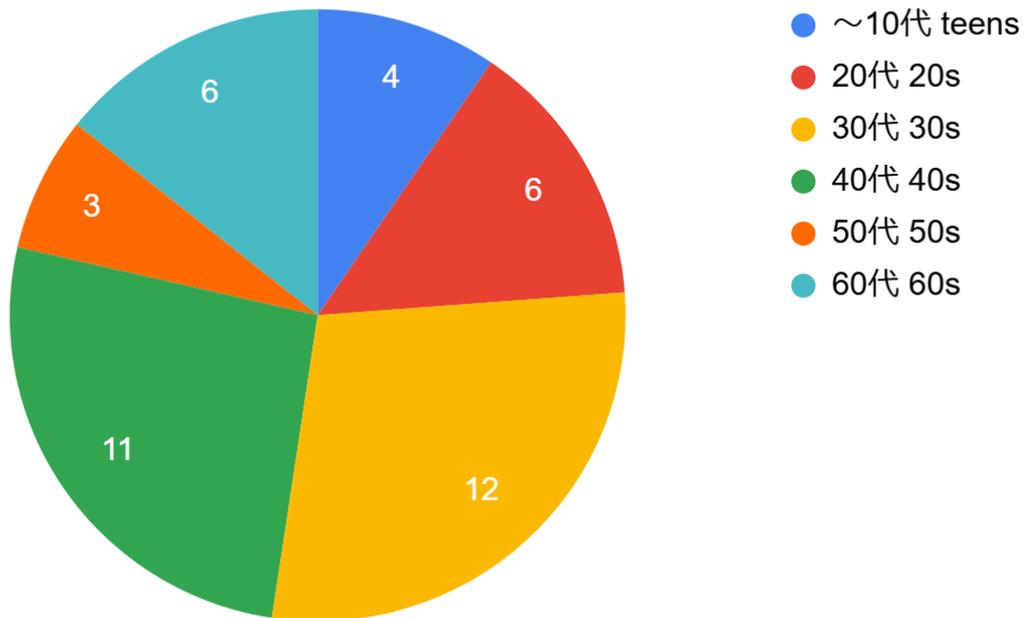
検索ワード	2020 (※参考)	2021 (準備年)	2022 (1年目)	2023 (2年目)	2024 (本年度)	上昇率 (20→24)
「葛尾」	41300	48900	56600	74500	125000	↑300.2%
「Katasurao」	1900	2480	3340	4290	6960	↑366.3%
「葛尾、アート」	15600	17900	20800	23700	30500	↑199.5%
「葛尾、アート(一観光)」	12200	13300	15500	17100	22500	↑184.4%

アンケートの集計

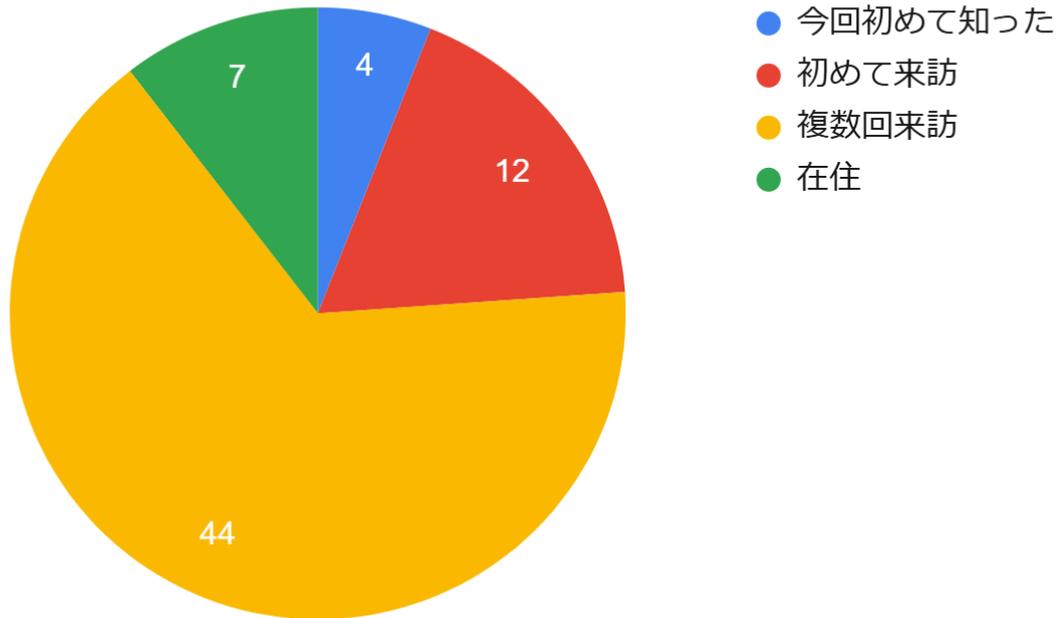
村内企画来場者の年齢 (n=69)



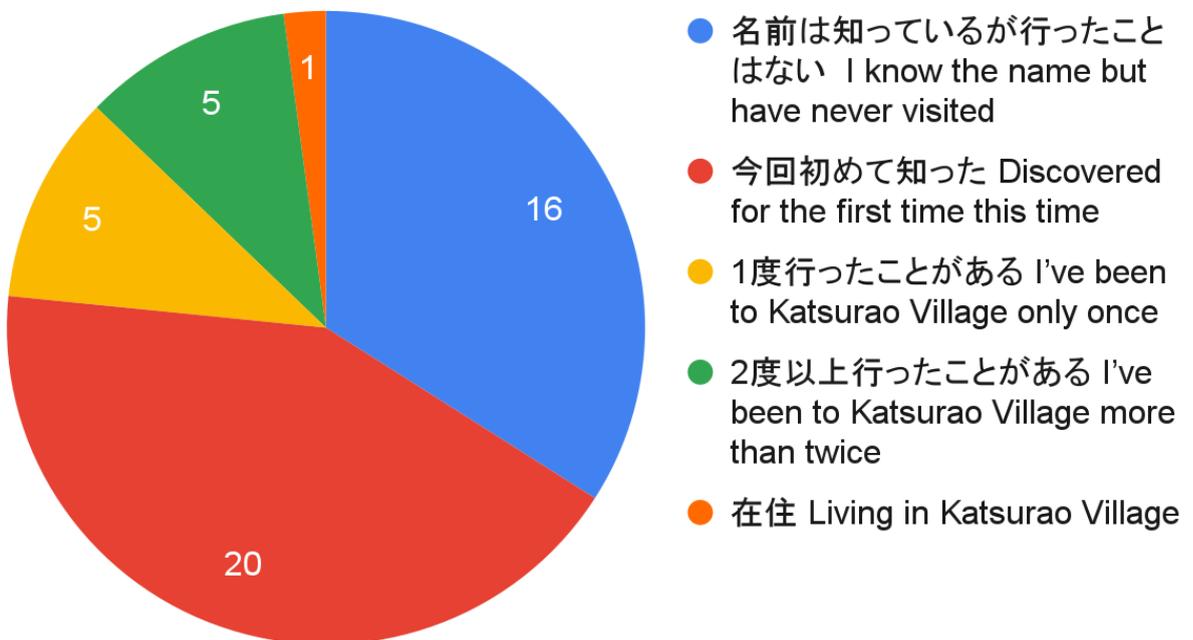
県外企画来場者の年齢 (n=42)



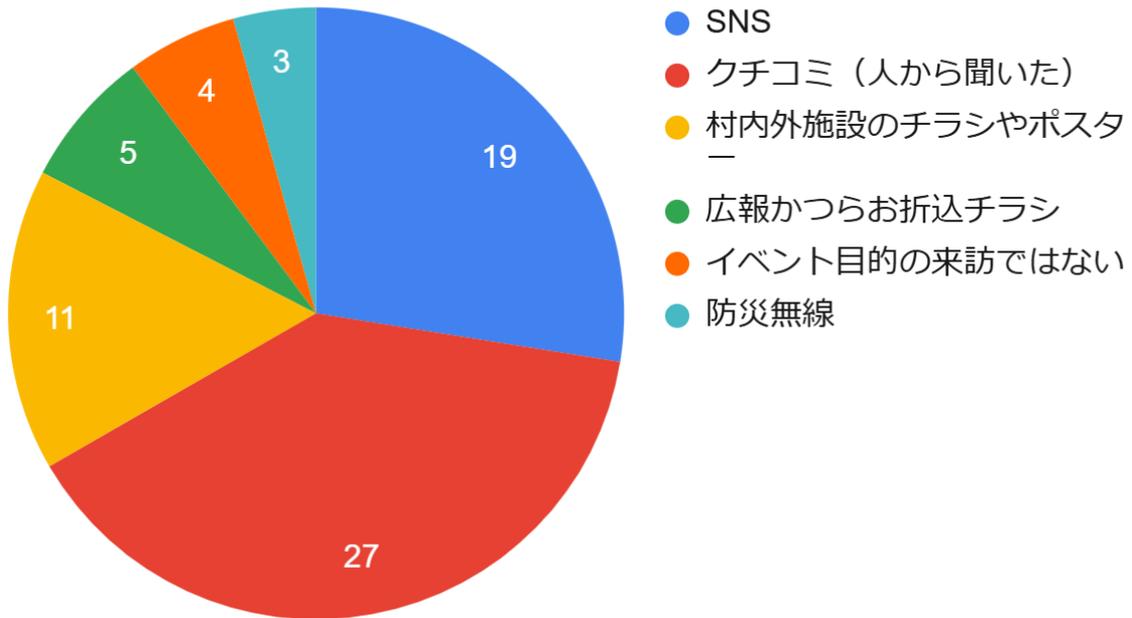
村内企画来場者【1】葛尾村との関わりについて教えてください (n=67)



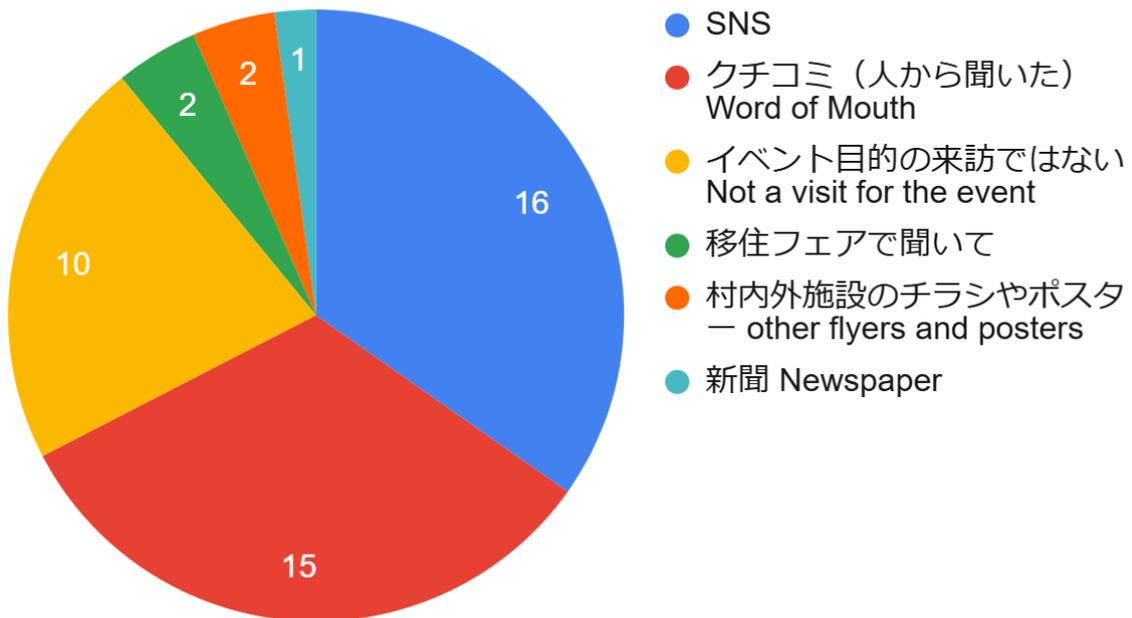
県外企画来場者【1】葛尾村との関わりについて教えてください。(n=47)



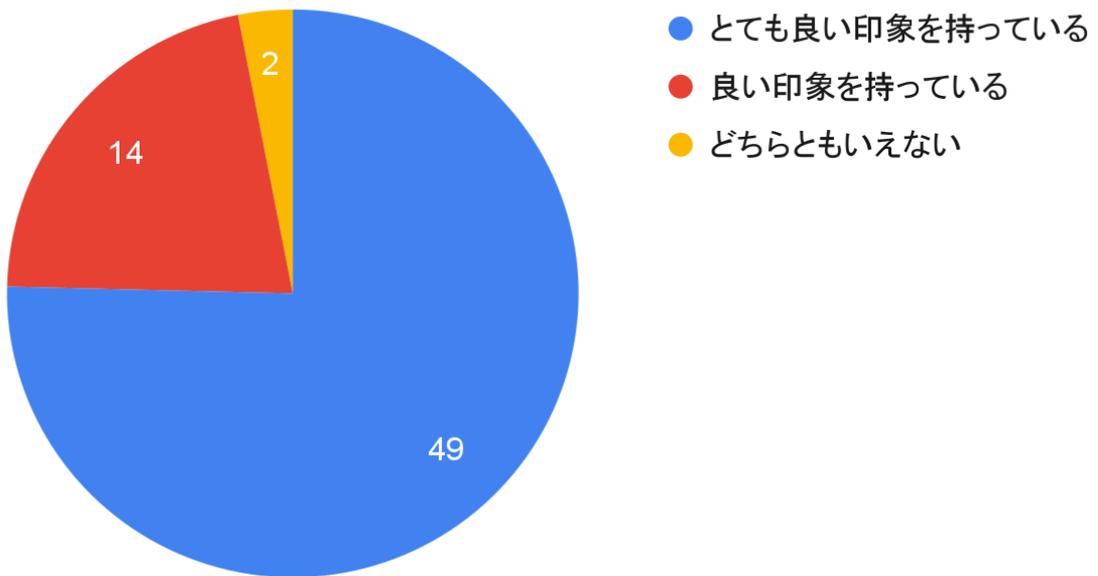
村内企画来場者【2】今回のイベントを何で知りましたか？（n=69）



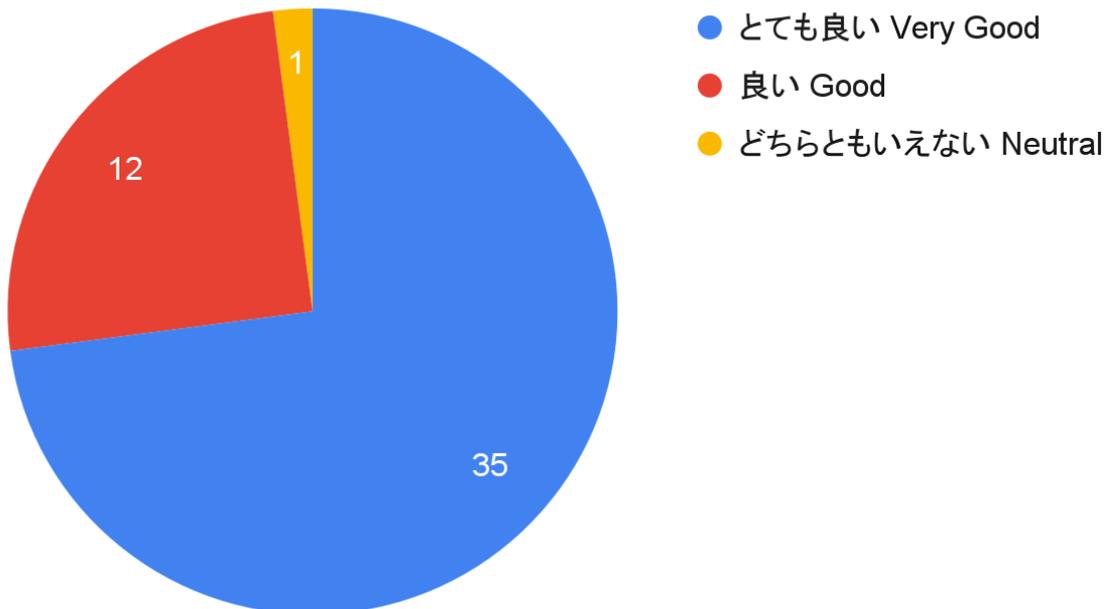
県外企画来場者【2】今回のイベントを何で知りましたか？（n=46）



村内企画来場者【3-1】葛尾村でのアーティストやクリエイターの活動について、感想を教えてください。(n=65)



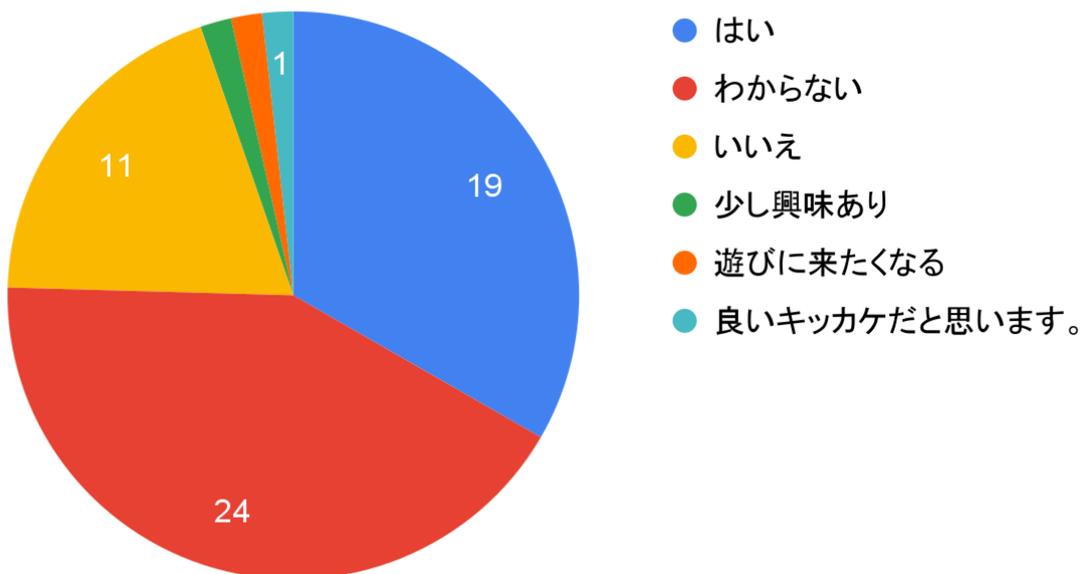
県外企画来場者【3】本企画の感想を教えてください。(n=48)



村内企画来場者【5】現在のお住まいから他エリアへのお引越しを検討したことはありますか？(n=58)



村内企画来場者【6】地域でアーティストやクリエイターが活動していると、自分も移住して来たいと思いますか？(n=57)



来場者アンケート(自由記述)※原文ママ

村内企画来場者【7】葛尾村への移住・定住にあるとよいと思うもの・こと等をご記入ください。

家！

スーパー

住人のにぎわい

飲食店？

美術館

リノベして住みたい若者が多いと思うので、古い家屋、空き家等 自給自足の生活ができる

移住意欲に繋がる継続的な事業があること。例えばAIRであればそれが継続して続いていき、葛尾村ではいつでも外から来たアーティストさんと交流できる、また子どもにそうした体験をさせられる、という村の取り組みがあれば魅力の一つになります。

全国から見て独自の取り組みがある学校がある

年会費払ったら、その年は何回でも泊まっていいですよ～みたいなシステムの宿！！

移住者のモデルケース

仕事

温泉施設、居酒屋

車の購入の補助

100均

農作業を共同でできる(手伝える)環境。民芸的技術(生活に必要なものを自作する)の向上。作物を調理するノウハウの共有。以上のことの、伝統的なやりかたを掘り起こし、新しいやりかたを開拓すること。

交通(移動)インフラ(オンデマンド的なもの)

一番となるもの(県・日本)今は思いつかない

より詳細な情報(物理的なものはいらないのかも知れません)

安心できるコミュニティ

住宅

楽しく暮らしている人たち

コメント(感想など、自由記述)

ノッティングに興味があり参加しましたが、ノッティングを通してメルティーシープ(凍み餅も)、今まで知ることのなかった葛尾のものに触れることができ、地域特有の産物の良さを実感することができた特別な機会でした。

今回のワークショップで、メルティーシープが他の羊と比べて毛足が長いなど、初めて知ることができとても有意義でした。

また、食用の羊の毛がほとんど廃棄されていると知り、ただ食べて消費するだけではなく、肉以外の部分もこのようなすてきなインテリアとして活かせる仕組みが全国的に広まればいいなと思いました。

次回はぜひ葛尾村に伺ってメルティーシープも食べてみたいと思います。ありがとうございました！

しみもちをはじめ知っておいしかった。メルティーシープの立派さに驚いた

自分も参加してみたいと思いました

ゆっくりのんびりとして帰りたくなった

悪天候にもめげずに楽しそうにしていました。もてなしの心と、自分たちが楽しむことの両立があったと思います。

本来なら「よそのもの」である外部の人たちと、村の人たちの交わり、結びつき、うまくやっという感覚が感じられました。イベントは予想外のことが起きて、そこで立場による食い違いがハッキリしたりすることが多いと思いますが、いい感じの統一感と個性の両立を感じました。

新しい見方を見せてくれる

日常で体験できないことに触れることができた

会場全体が温かい雰囲気にもまれていて素敵な空間だなと思った

とても有意義な体験ができました。これからも様々なアーティストを拝見したいです

新しい人の動きを作っている

実際に展示に参加できたのが面白かったです。

新鮮な目線でカツラオを感じられる

取れたての毛の羊の臭いがカツラオの自然を感じられました。自分の身長ほども長い毛糸を紡ぐのもおもしろく、足フミ機はとても恰好よかったです

人間の嗅覚が普段使われていないことに気づかされました。人によって感じる味覚がちがうことがおもしろかったです。

染めて、食べて、ぬって、形になって、盛り沢山で楽しかった！！

去年から見てますが、少しずつ景色が良い方向に変わっていつているように見える。

子供連れで全然お話する時間が持てませんでした。普段葛尾で見ないような訪問者がいて良いなと思いました。

村の人が流れている(出たり・入ったり)という状態をポジティブに捉えている

久々に手触り感のある作業をしました！たのしかったです。

来るたびに色々なことをやっていて、わくわくします！)

珍しい皮のせん打ち そしてキーホルダーづくり 貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。楽しかったです！

ワラモジリ楽しいです！毎年楽しみになってます！

おもち美味しかったです！次の機会はぜひ一緒にやらせてください！

村の伝統をおじちゃんたちからおしえてもらうことができとても貴重でした。

村のおじいちゃんと話せて楽しかったです！

初めての参加でしたが楽しかったです

新しいアーティストが毎回来て、葛尾村を知ってかえっている

ゆっくり丁寧に作業できたのでよかった

気さくな方が多い印象を受けました

凍みもちに使われる葉っぱの煮汁から、媒染剤しだいでこんなにキレイに染まるとは思いませんでした。楽しかったです。

新しい考え方や視点をおしえてくださる！

肉をそぐ体験がとても新鮮で、ふだんできないことなので出来てとてもよかったです。動物によって皮の質感がちがうのが発見！

創造的で楽しい

食べるだけだったごんぼっぱの葉で染められて新しい発見でした

今回はじめて知りまして、ちゅうもくしていこうと思います！

楽しく学びになる一時でした

ワークショップ参加は2度目ですが、毎度、しんせんで楽しかったです

知人が活動している 頑張っている姿に感動。いっかせいでなく継続願う

村の活性化の源になっている 素敵な空間でした(長くいたい気持ちにさせてくれる)村が活性化していくんだなと感じました 頑張れ 応援してます
草木染めで絹に色が出るのが印象的でした。

完成版 未しみしみもち最高でした。

素晴らしい活動と葛尾の良さを表現してくれる場所があるのが嬉しい

どの展示も素晴らしくて感動しました。葛尾がよりすきになりました。

村出身ですが初体験で難しさ、楽しさを味わいました。自分で手作りする充実感もありました

アーティストさんらしい活動を通して様々な催しや取り組みをされている。

とても感動しました。見たことない葛尾の風景、見え方、考え方を学ばせてもらえた。

活動の成果発表がすばらしい ワークショップわかりやすく楽しく実践できて良かったです

音や映された風けいがすてきでした。

毎度すばらしい発表が楽しみです

これまで廃棄されてきた羊毛の活用が大切だと思うし、国内のものを利用する事は非常に良いこと。

羊毛をこれまで趣味や仕事で使うことはあっても、手元に来るまでのことをあまり考えたことがなかった。羊毛も毛糸にしても国産のものは高くて手に入らないのかと思っていたが、原毛を洗うシステムがなく、廃棄されていると知って非常に驚いた。是非、今後も活用していただきたいし、そのためにお手伝い出来ることがあれば個人レベルでもしていきたい。

自然にやさしい

羊愛にあふれた場所(人)で心地よかったです。ごんぼっぱのしみもちもエゴマのじゅうねんだれもとてもおいしかったです♡ 短い時間でしたが、スピンドルも嬉しかったです。色々な方法で大切なことを守っていきいている方々がいるのは心強いです。カツラオムラの取り組みが広がっていくとよいなあと思います。ありがとうございました。

マフラーを作らせていただきました。とてもすてきな糸でした。

村の活性化につながりそう。

染色だけではなく、裁縫など一連の作業ができて楽しかったです。おもちも食べられて良かったです。

体験できる機会がなかなかないので貴重な体験になりました。

他市町村には無い取り組みのため。ただ、どの様に活かされるのか分からない部分もある。

アーティストのみなさんの作品がどれも素晴らしくて感動しました。

新しい視点も感じる 地域の方をまき込んでいるのが良い

初めて皮からそぐ体験は楽しかったです。1人でこの作業は大変ですね。

若いアーティストたちの個性豊かな作品がよかった

おもしろい視点・作品がよかった。

楽しませて頂きました。アーティストご本人の説明ももっとききたいです

みなさんが独創的で自由な発想をしている。

今回3名のアーティストの作品を見てお話を伺うことができたが、みなさま独特な葛尾への想いを持って活動されていることがよくわかって楽しかった。

子どもと一緒に楽しめて良かったです

過疎に近い村の魅力の発掘や継承に寄与できそうだと思うから

トリエンナーレのように、複数箇所を回って鑑賞できること、直接アーティストから解説を受けることができるのが良かったです。

村の財産(蔵や体育館)を使った展示は、作品とともに村のポテンシャルを感じました。どの作品も印象に残りましたが、鮫島さんの作品は、継承者不足、アーカイブという点を、最新技術でサポートするというのがアートでありながら、実用性を感じました。

橋本さんの作品は、葛尾を外に伝えるという部分に可能性を感じました。

また、橋本さんの作品の音と鮫島さんの作品の踊りを合わせたものをスピノフ的な感じで見たいなと思いました。

町田さんの作品と増田さんの作品もつながっているように感じましたし、永井さんの作品も楽しみです。

数量的にも、1日で回るにはちょうどいいくらいのボリュームでした。

はじめてやりました。みなさんあたたかかったのしかったです。

羊毛で初めて糸つくりしましたが楽しかったです！！

葛尾村の活動を知ることができてよかったです。郷土の食(凍みもち)おいしかったです。

村内在中の村民が少なくなったところに他地域からのアーティスト、クリエイターの方々が葛尾に感動し作品作ってくれている事に感謝します 今後のますますの活躍に期待しております

良かったです。(ただ(寿学級の)参加者が少なかったのが残念)

新しい発想でおもしろかった。

毛糸もおもちも自然味あふれる風合い、味わいでいつかお訪ねしたくなりました

一部参加作家のインタビュー映像の編集で関わったのでなおさらですが、作風も全くちがう作家が、村に入り、人や自然と関わり、自らの表現をしているのがありありと見れて感動しました。作品の中で知った「土葬の習慣があった(大槻さん)」「緑肥としてクリームゾンクローバーを植えた(榎本さん)」ともにく土>についての話ですが、つながっている感じもして、Katsurao Collectiveの活動が年を重ね、様々な作家が表現することによりより多層的に、豊かに、村の過去と今と未来が立ち上がる気がします。

三本木君の作品に出合えて良かった

私も東日本大震災その後が気になりいだけて村に今年いったのでその地域の他の場所も気になっていたのでクリエイターさんを通じ葛尾村を知ることができてよかったです

地域×アートが面白いです。

カジュアルな空間でアートを知る・感じる事ができて、緩やかに楽しむことができたのがとても良かったです。

とても分かりやすかったです。ありがとうございました！

その土地の持つ、人々の営為、想いの堆積に真摯に向き合い、制作なさっているように感じられます。意義深い取り組みを鑑賞させて戴きありがとうございます。

また行きたい！

力作が多く、大変良かったです。

目にも心にも優しい作品ばかりだなあと感じました。

震災後、何年立ってからかは覚えていないが、福島復興ボランティアに参加したことを思い出した。その時の私は完全に外の人間として参加をしたが、本展のアーティストやクリエイターの方々を通じた展示を見て、復興という道について改めて考えることができた。当時も、復興についての意味を考えたが、地域の中と外で考え方はやはり違うなと感じた。

実際に行ってみたくになりました。

いつか、たいざいしたいです！よかったです！

高校で同じく3.11で被災した岩手県宮古市についてのまちづくりを学んだので考えさせられるものがありました。

実験的な取り組み、面白かった これからどう展開されていくのか楽しみ
まず空間がとても素敵でした。カフェがあるということで、飲食をしながら作品を観るということが周りの人とゆったり時間を共有しているようで心地よかったです。
葛尾村のことは存じておりませんが、映画を通じて少し身近な存在になった気がします。東京にいと毎日忙しく過ぎていく時間に心の余裕がなくなる時がありますが、今日のこの時間を過ごすことができよかったです。素敵な企画をありがとうございました。

訪れたことのない場所ですが、どんなところか興味深かったです。

こういった成果展を東京で行うのはあまり見たことがなく、作家としても地域としてもとても良い活動だと思いました。

葛尾村の事は知らなかったのですが、行ってみたくになりました。

全体的に見ごたえがありました！

マズダさんの映像、透明感があってキレイです。アーティストが滞在するということは、それぞれのアーティストが独自の目線で、それぞれの村を「よく見る」という事なのだなあと感じました。あと、折り紙やばい。

ギュッとまとまっていて見やすい展示でした。キャプションも良い情報量でした。

かつらおのことがとても気に入りました！！今度行きます！！

自分の故郷にも、原発が、あります。
実家も過去2度の水害にあい、再建が難しい状況です。移住定住から、文化をつくる。土地にいた方と交わっていくための一助として、アートがあることに、胸を打たれました。

とても素敵な取組で興味を持ちました。ありがとうございました。

I am very impressed and moved by the Katsuro Village project. I think it's an inspirational story of resilience and I would wish all disaster areas would get the same chance of recovery.

たまたま寄らせていただきましたが、知らなかった事を知る機会が持ててよかったです。知らないことを知れて良かったです。

地元を伝える表現として、こういう展示があるんだと感動しました。展示を通して多くの人がある村を知ること、どこかの誰かの心に村が残り続ける。残す、繋げる表現がとても素敵な展示だと思いました。

こういうのを知らなかったので、今日来て良かった。

行ってみたいと思いました

グループ展でありつつ、作品同士がつながって村の一側面が浮かび上がるようで面白く拝見しました。

いつも東京で発表というのがとてもいいなと感じています。県外へ今の福島を伝えるというと、食とか農になりがちになっている気がしていたので新鮮ですし、メッセージに力強さがありますね。

これからも長く続けてほしい事業です。

ほっこりしました！

芸術の力を考えます。不幸なことにみまわれた町・村の具体的な復興(人口増、経済力回復、人口増加等)にどれだけ寄与できるのか。芸術家の自己満足に終わらせない何かをつかみたいですね。がんばって下さい。

芸術家の方が実際にその土地に住んで、その場所に根付いた作品を作ったというのがとても魅力的に感じました。ありがとうございました。

福島県内で開かれたイベントやアーティスト達の様々な活躍が見れ、面白いと感じました。

多数の作家の作品が珍しいです。

アーティストしえんをさらにせっきょくてきに！！

4 事業の実施状況

(1) アーティスト・イン・レジデンス事業

(1)ーア「葛尾らしい」地域資源を発掘・提供し、その魅力を発信してくれるアーティスト・クリエイターを呼び込み、村内の活動を支援する。

実施内容:参加者の公募を実施した。36名の応募者があり、公募、招聘合わせて8名の参加者を決定した。

※招聘者は本事業への効果を勘案し事務局が選定した。

※公募採択者は関係者による審査で採択者を決定した。

24年度採択者一覧

滞在時期	名前	活動テーマ	活動進捗	滞在日数
年間	永井文仁	写真表現	葛尾村の風景をカメラオブスキュラの方法で撮影	62
年間	増田拓史	コミュニケーションアート、パフォーマンスアート	下葛尾の営農組合の稲作の取材とともに、葛尾村の6次産業についても調査、映像の撮影、村民のインタビュー	92
ターム1	鮫島弓起雄	造形、モノ語り、石、イヤホンジャック	山学校について調査。宝財踊りをモチーフにした作品を制作	54
ターム1	橋本次郎	環境音楽、環境映像	野行の宝財(ほうさい)踊り、葛尾音頭などの行事にまつわる音楽と葛尾村の自然環境音を合わせたサウンドアートを制作。	43
ターム1	町田紗記	絵画、壁画、絵本	葛尾村の昔話やエピソードを収集。パンフレット形式のイラスト作品を制作。	60
ターム2	斎藤英理	民話、映像・インスタレーション、写真	葛尾村の昔話や伝説の調査とあわせ、自身の私的な日記のような映像作品を制作した。フジサイクルにて展示	30
ターム2	片山裕規	電子楽器、サウンドインスタレーション	葛尾村の水についての音の採取や、水の音を視覚化する作品を制作した。パフォーマンスイベント実施。	19
ターム2	大川友希	彫刻、地域の祭り、風習、習慣、伝説、パッチワーク	三匹獅子についての調査をおこない、リサーチの過程や資料についてを展示した。	22

(1)ーイ 令和6年度に呼び込んだアーティストが村内で活動した内容及び、令和4年度、令和5年度にKatsuraoAIRプログラムで滞在した以下のアーティストの作品等を発表するイベントを企画・運営する。

村内イベント(4回以上)

実施日	内容	実施作家、ゲスト等	会場	来場者(視聴者、作家、スタッフ含む)
6/7	関係者向けアーティストトーク	町田紗記、鮫島弓起雄、橋本次郎	葛尾村役場視聴覚室	14
6/12	浜通りツアー	町田紗記、鮫島弓起雄、橋本次郎	浜通りエリア震災遺構など	4
6/13	福島第一原発ツアー	鮫島弓起雄、橋本	福島第一原子力発電所	3

		次郎	電所、東京電力廃炉資料館	
6/16	あぜりあ市でのWS	町田紗記	葛尾村立復興交流館あぜりあ 屋外	11
6/16	あぜりあ市での展示	鮫島弓起雄、橋本次郎	葛尾村立復興交流館あぜりあ 蔵	120
7/25-7/28	ショートターム1 活動報告会/ロング ターム中間報告	町田紗記、鮫島弓 起雄、橋本次郎 /増田拓史	葛尾村立葛尾中学 校休校中校舎、葛尾 村復興交流館あぜ りあ/葛尾村復興交 流館あぜりあ 蔵	593 (内訳:あぜり あ518、中学 校75)
7/27	鮫島弓起雄実施イベ ント:宝財踊りコレク ション(ファッション ショー)	鮫島弓起雄	葛尾村復興交流館 あぜりあ 屋外ステー ジ	60
7/26-7/28	ひかりをすくう(ロング ターム中間報告)	永井文仁	葛尾村復興交流館 あぜりあ駐車場・ irukoto	30
7/27	1# introductionアー ティストトーク(ロング ターム中間報告)	永井文仁、増田拓 史	葛尾村復興交流館 あぜりあ	25
9/12~9/16	学生AIRプログラム活 動報告展	浅利駿輔、森崎滯、 嶽野蓮、福永知花、 江口禎駿、遠藤梨 夏、山本千夏	葛尾村立葛尾中学 校休校中校舎	87
11/21-11/24	ショートターム2、ロン グターム 活動報告会	YuUkiKATAYAAM・ 大川友希・斎藤英 理 永井文仁・増田拓 史	葛尾村立葛尾中学 校休校中校舎	77
			旧フジサイクル	15
			葛尾村屋内ゲート ボール場	40
			あぜりあ会場	373
11/23	YuUkiKATAYAAM実施 イベント:幻像とサイマ ティクス	YuUkiKATAYAAM	葛尾村屋内ゲート ボール場	15
2月1日~3 月(3月24日 時点)	コミッションワーク 作品展示	榎本浩子・大槻唯 我・村上郁・喜多村 徹雄	葛尾村復興交流館 あぜりあ・葛尾村立 葛尾中学校休校中 校舎屋外	2185
合計				3652

都内でのPRイベント(2回)

実施日	タイトル	参加作家、ゲスト 等	会場	来場者(視聴 者、作家、ス
-----	------	---------------	----	------------------

				タップ含む
9/21-9/29	Katsurao Collective ART WEEK at Impact HUB Tokyo	榎本浩子、尾角典子、杉浦藍、町田紗記、橋本次郎、工藤将亮、村上郁	Impact Hub Tokyo	368
12/25-12/30	渋谷ヒカリエ 8/CUBE 展示企画『ひかりをむすんで-COSMIC HABITAT-』	榎本浩子、喜多村徹雄、大槻唯我、鮫島弓起雄、三本木歆、杉浦藍、増田拓史、村上郁	渋谷ヒカリエ キューブ 8/CUBE123	1197
合計				1565

各会場の様子



Katsurao Collective ART WEEK at Impact HUB Tokyo (会場: Impact Hub Tokyo)



渋谷ヒカリエ 8/CUBE 展示企画『ひかりをむすんで-COSMIC HABITAT-』
 (会場:渋谷ヒカリエ キューブ8/CUBE123)

(1)ーウ 呼び込んだアーティストが村内で活動しつつ、地域住民等と交流できる拠点を確保し交流イベントを実施する。(月1回程度)

交流拠点の活用、および住民との交流イベントの実施

実施日	内容	参加作家、ゲスト等	会場	来場者(視聴者、作家、スタッフ含む)
5/16	AIRロングターム作家、短期来村者交流	増田拓史、黒田香、須田理紗子	交流拠点	6
5/24	ワークショップ近あづき、COC、KCスタッフ交流会	近あづき、アシスタント、COCスタッフ	せせらぎ荘	11
6/7	AIRチーム1作家地域交流	町田紗記、鮫島弓起雄、橋本次郎	せせらぎ荘	14
6/23	AIRロングターム作家、チーム1交流会	増田拓史、町田紗記、鮫島弓起雄、橋本次郎、	交流拠点	5
6/24	AIRロングターム作家、チーム1、村民交流会	増田拓史、町田紗記、鮫島弓起雄、橋本次郎、	交流拠点	8
7/26	AIRチーム1作家、ロングターム作家、報告会ゲスト	増田拓史、永井文仁、町田紗記、鮫島弓起	交流拠点	20

	ト、地域の方を招いて交流	雄、橋本次郎、その他 村外ゲスト、村民		
8/13	AIRロングターム作家、 ワークショップ講師、地域 住民との交流	増田拓史、近あづき、 アシスタント、来村者 など	交流拠点	8
9/26	AIRロングターム作家、地 域住民との交流	増田拓史、村民、コレ クティブスタッフ	交流拠点	4
11/7	AIRロングターム作家、ター ム2、地域住民との交流	増田拓史、永井文仁、 斎藤英里、コレクティ ブスタッフ	交流拠点	6
11/23	AIRターム2作家、ワーク ショップ作家、地域の方を 招いて交流	増田拓史、永井文仁、 大川友希、斎藤英里、 YuUkiKATAYAMA、片 岡美菜、古平(ヤマノタ ミ)、小金沢智、宮本和 之、コレクティブスタッ フ	交流拠点	16
12月	藁もじりワークショップイベ ント、ワークショップ講師、 参加者、地域の方との忘 年会	藁もじりワークショップ ワークショップ講師、コ レクティブスタッフ	交流拠点	25
合計				64



6月7日交流会の様子

滞在・交流拠点への滞在、活用人数

利用月	利用人数	利用日数総数	備考
4月	—	—	※4月は契約中のため受け入れをしていない
5月	5	15	
6月	4	89	
7月	5	100	
8月	6	36	
9月	4	27	
10月	6	56	
11月	6	99	
12月	3	9	
1月	4	40	
2月	6	36	
3月	—	—	※清掃およびメンテナンス期間
計	<u>49</u>	<u>507</u>	二

(1)一エ 地方活性の政策として、若年層への支援や方策が不可欠なため、専門学生、大学生、大学院生、卒業後3年以内のアーティスト・クリエイターに向けた地域滞在プログラムを実施、地域との交流を促進するプログラム並びに成果報告展を村内で実施する。

実施概要

事業内容について

- ・アーティスト・クリエイター志望の学生、もしくは卒業後3年以内の人材を対象とした地域のリサーチと発表(AIR事業)を実施する。
- ・伴走者は、移住促進に向けた地域資源の活用方法の提案、地域滞在を通じた地域の発信を行うため、学生たちと一緒に現地で活動を行いながら、学生に近い場所で活動へのアドバイスをを行う。

進行スケジュール

6月:参加学生決定、学生向けオリエンテーションを実施(佐賀大で実施)

7月:伴走者事前リサーチ

8月20～9月17日:滞在

9月12日～9月16日:活動発表

10月、11月:最終打ち合わせ、片付け

参加学生:

浅利駿輔、森崎滯、嶽野蓮、福永知花、江口禎駿、遠藤梨夏、山本千夏

伴走者:

阿部浩之(佐賀大学 芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科 准教授)

来場者数

(1)一オ 令和4年度、令和5年度にKatsurao AIRプログラムで滞在したアーティスト及び令和6年度に呼び込んだアーティスト等と協議し、村の地域資源を活用した作品制作を支援する。

コミッションワーク事業一覧

作家名	制作内容	作品画像
村上 郁	葛尾村で行われた「サンカク折り紙」をテーマにした造形作品	
大槻 唯我	葛尾村の四季をテーマにした写真作品	
榎本 浩子	クリームゾンクローバーをテーマにした平面作品と絵画作品	

喜多村
徹雄

集いの場を作る
ことをテーマにし
た造形作品



(2)アーティスト・クリエイター等の活動を支援する体制整備

(2)ーア 県外のアーティスト・クリエイターが村に愛着を持ち、移住につなげるための活動拠点の運用を行う。(コワーキングスペース、テレワークスペース、アーカイブスペース、交流スペース、制作スタジオの提供等)

コワーキングスペース、テレワークスペース利用者数(単位:人)

利用月	利用者	備考
4月	22	利用簿記載:7名、スタジオ利用:15名
5月	5	
6月	16	
7月	23	
8月	52	
9月	128	
10月	8	
11月	10	
12月	14	
1月	6	
2月	6	
3月	1	(3月20日時点)
計	285	



コワーキングスペース、テレワークスペース利用中の様子

かつらお企画室利用者数(イベントなどでの利用)(単位:人)

利用月	利用者	
4月	14	
5月	3	
6月	2	
7月	16	WS利用6名、スタジオ利用10名
8月	35	WS利用17名、スタジオ利用 18名
9月	16	スタジオ利用16名
10月	32	WS利用者18名、スタジオ利用14名
11月	84	WS利用者68名、スタジオ利用16名
12月	35	WS利用者数32、スタジオ利用者3名
1月	0	
2月	0	
3月	0	
計	237名	

※ワークショップ実施とは別に集計



かつらお企画室利用中の様子

スタジオ利用など

	利用者の居住地域	内容
5/7	浜通り	コワーキングスタジオ使用
5/22	東京	制作スタジオ利用
5/26	京都/福島	現地活動、小中学校プログラム参加
8/14	京都/福島	葛尾村盆踊り出店参加
9/4-9/8	神奈川・台湾	交流拠点利用/滞在活動
10/28~11/3	東京	スタジオ利用/滞在活動/かつらお恵みの感謝祭出店
11/3~11/7	秋田	スタジオ利用/滞在活動/かつらお恵みの感謝祭出店
11/23~24	東京	中学校音楽室でトークイベント(来場者13名)
12/17~1/5	宮城	スタジオ利用/滞在活動
12/27	秋田	滞在活動
1/5~1/12, 2/6~2/12	東京	滞在活動、葛尾村民文化祭参加
利用者数 (各滞在毎にカウント)		25名

(2)ーイ 村外のアーティストが「葛尾らしい」地域資源を活用し、地域住民と関係性を深められるワークショップを企画・運営する。(6回以上)

かつらお企画室実施ワークショップおよび実施イベント一覧(村内)

実施日	内容(タイトル)	講師	会場	参加者(視聴者)
7月27日	地元の羊の毛を洗おう! つむごう! つくろう! 2024	吉田麻子	あぜりあ	25
8月14日	かつらおニットバッグづくり体験	近あづき	あぜりあ	15
8月25日	色を食べる、色を染める。ーオヤマボクチ編ー	関美来	かつらお企画室	17
11月23日	福島の動物たちの皮なめし前工程体験&レザーキーホルダーづくり	片岡	かつらお企画室	32
11月24日	まだ私の中に僅かに残る自然の記憶とそれを呼び覚ます香り	ヤマノタミ	あぜりあ	12
12月8日	葛村の藁を使って正月飾りを作ろう2024	遠藤英徳	かつらお企画室	32
合計				133

(2)ーウ 県外の移住ターゲット層が葛尾村への移住に興味を持ってもらうため、首都圏等で「葛尾らしい」地域資源を活用したワークショップを企画・運営する。(4回以上)

県外で実施するPRワークショップ

実施日	内容(タイトル)	講師	会場	参加者 (視聴者)
4月6日	葛尾村「触ってつむごう！」	吉田麻子	東京神楽坂	15
4月7日	葛尾村「触ってつむごう！」	吉田麻子	東京神楽坂	11
11月6日	マフラーづくり体験 & かつらお特産展	近あづき	黄金スタジオ マルシェ	24 (見学のみ13)
11月17日	どもはっこひいちば&のきさきワークショップ in かつらお特産展	近あづき	黄金スタジオ マルシェ	36
合計				99

実施日	実施中の様子
4月6日	 <p>葛尾村「触ってつむごう！」の様子</p>

4月7日



葛尾村「触ってつむごう！」の様子

11月6日



「マフラーづくり体験 & かつらお土産展」

11月17日



「こどもはつこひいちば&のきさきワークショップ in かつらお特産展」の様子

その他の実施協力したワークショップやイベントなど

実施日	内容	会場	来場者(視聴者、作家、スタッフ含む)
8月3日	標葉祭りでの七夕短冊づくり	活性化センター駐車場、小学校等	1008
8月22日	凍み餅ワークショップ	かつらお企画室	34
9月6日	葛尾幼稚園ワークショップ	葛尾幼稚園	15
9月9日	葛尾幼稚園ワークショップ	葛尾幼稚園	15
9月10日	葛尾幼稚園ワークショップ	葛尾幼稚園	15
10月27日	・双葉郡移住体験ツアー(JTB) ・羊毛で羊ワッペンを作ろう	かつらお企画室	32
1月12日	どんど焼き (協力)	村内空き地	125
合計			1244

(2)ーエ アーティスト・クリエイターを村民が自主的・主体的に受け入れる村内体制強化を支援する。

随時実施

(2)ーオ 村での宿泊・滞在場所、住民等との取次ぎ等の活動を支援する。

視察、来訪、短期滞在者対応の数その他、地域への滞在し活動を受け入れたアーティスト

	来訪地域	人数	受け入れ内容
5/7	浜通り	2	コワーキング視察
5/9	群馬	1	視察
5/22	東京	5	視察
5/22	東京	1	制作スタジオ利用
5/26	京都	3	現地活動、小中学校プログラム参加
6/10	宮城	3	視察
6/21	いわき	1	視察
6/21	京都	1	視察
7/15	群馬	2	視察
7/17	東京	3	視察
7/20	東京	5	視察
7/24	宮城	1	視察
7/25	福島	3	視察
7/26	福島	2	視察
9/4	—	1	視察
9/6~9/8	秋田	1	視察
10/17	川俣村	1	視察
10/29	東京	4	視察
11/5	宮城	4	視察
11/8	東京	6	視察
11/26	東京	2	視察
11/27	川俣村	1	視察
11/28	東京	1	視察

12/27	秋田	3	スタジオ利用
1/14	宮城	4	視察
1/5	東京	5	滞在・スタジオ利用
1/16	東京	5	滞在・スタジオ利用
1/12	東京	3	滞在・スタジオ利用
1/12	秋田	2	視察
1/11	広島	1	視察
1/11	広島	1	視察
1/11	広島	1	視察
1/11	広島	1	視察
2/27	宮城	2	視察
3/10	愛知	1	滞対応
合計		83名	

上記は滞在アーティストなどを除いた数

(3) 事業の周知、広報活動

(3)ーア 村及び本事業を村外に周知するため、チラシやポスター、活動をまとめた報告書等を作成し、配布する。

2024年度 チラシ等配布件数(3月10日時点)

実施月	配布件数(参考:2023年度)
4月	223(1256)
5月	1,231(721)
6月	8,172(942)
7月	420(380)
8月	3,200(2465)
9月	1,245(0)
10月	5,986(240)
11月	595(2980)
12月	522(128)
1月	945(210)
2月	134(82)
3月	297(855)
累計	22,970(10269)

報告書冊子の制作

昨年度より引き続き、報告書冊子を作成。デザイン力の高い冊子を作成し、アーティスト・クリエイター並びに、地域活動に興味のある移住候補者への求心力を高める。

(3)ーイ 本事業専用のSNSを管理、運営及び記事の作成、投稿を行う。

2024年度 SNS発信等の実績(2025年3月10日時点)

本事業専用のSNSを運営し、記事の作成、投稿を行った。 <ul style="list-style-type: none">・Facebook フォロワー数 310人・Facebook リーチ数 21,979件 ・Instagram フォロワー数 631件・Instagram リーチ数 14,950件 ・X(Twitter)フォロワー数 112件・X(Twitter)インプレッション数 42,564件

【SNSに関する現状分析】

・対外的なイベントを実施しない月間であったためフォロワー数の伸びはゆるやかであったが、来年度のアーティストインレジデンス事業の公募に関する投稿では過去の参加アーティストによる拡散によって多数のリーチ数やインプレッション数を獲得した。
・FacebookやInstagramでフォロワーが緩やかに伸びているのは、活動の認知が広がっていること、noteやポッドキャスト(インターネットラジオ)を通して事業について継続的に発信していることが作用しているものと考えられる。

(3)ーウ SNSのデータ解析を行い、課題を可視化し、その結果に基づき、記事内容やSNS発信方法について改善を行い、SNSのリーチ等の増加を図る。

SNS発信集計データ(2025年3月10日時点)

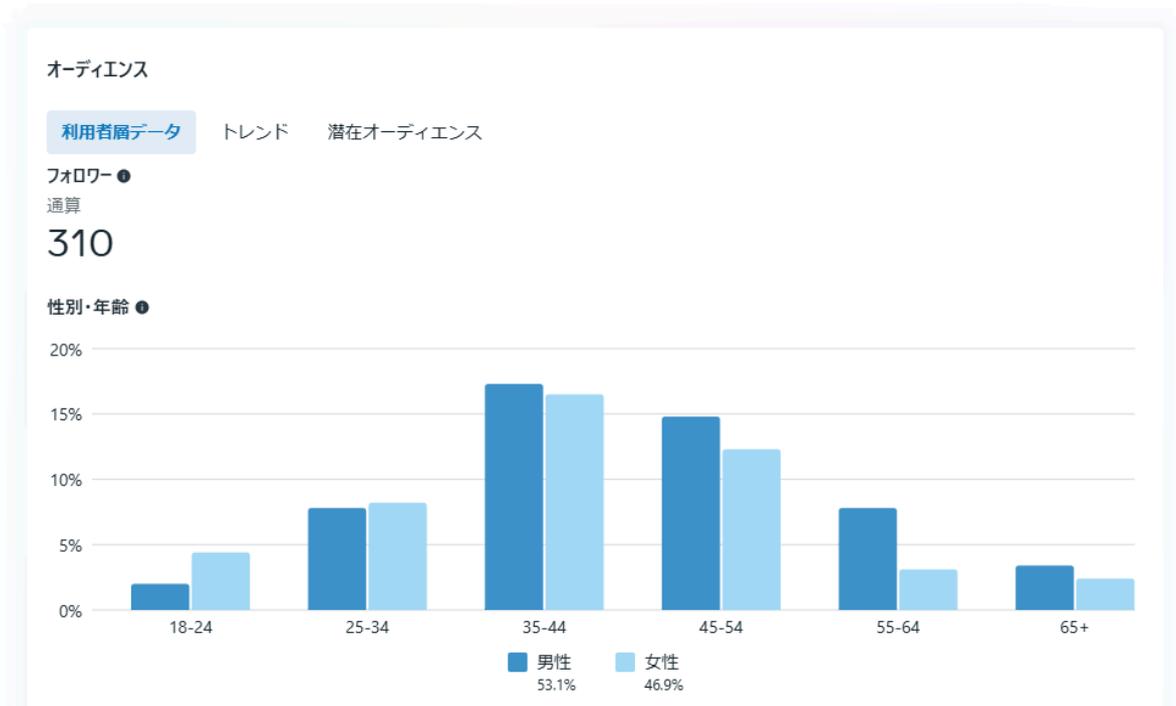
	Facebook		Instagram		X(Twitter)	
	累計フォロワー	リーチ	累計フォロワー	リーチ	累計フォロワー	インプレッション
4月	248	907	382	309	70	1,541
5月	249	1,606	389	683	74	1,859
6月	266	3,907	422	861	83	3,687
7月	277	3,072	447	1,005	88	4,630
8月	278	1,655	470	1,907	101	4,564
9月	286	2,057	491	2,648	102	6,279
10月	292	1,601	513	1,388	107	3,238
11月	300	2,036	550	2,258	108	7,576
12月	305	1,601	590	1,131	112	2,759
1月	307	1,847	618	1,353	113	3,792
2月	310	1,155	632	939	112	1,754
3月	310	535	631	468	112	885
合計	—	21,979	—	14,950	—	42,564

※リーチ: 投稿の推定表示人数

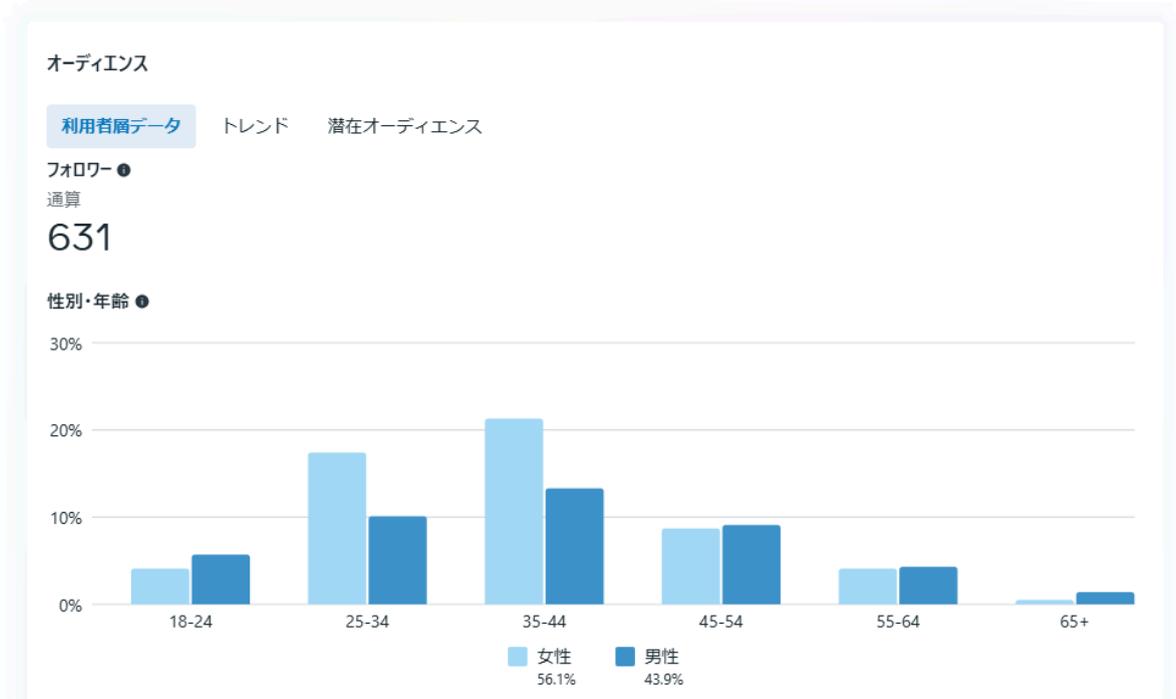
※インプレッション: 投稿の延べ表示数

SNSフォロワーの年代分布

Facebook



Instagram



(3)一エ 村に継続的に多様な形で関わっている首都圏等の関係人口に対し、移住・定住を促すため、村および村内の関係団体と協議・連携し、ターゲットとする関係人口を明確化し、リストを作成して、広報活動にそのデータを活用し、定期的な情報発信を行う。

葛尾村移住・定住支援センターで実施した調査結果も併せて集計し、結果の総合的分析を行いつつリスト化を実施。2023年集計結果と比較しながら地域の課題を整理し広報などに活用した。

関係人口リスト 集計(2025年3月10日時点)※原則として四半期毎に集計

	移住定住支援センター運営業務	アーティスト移住定住促進業務	合計
A 関係人口 ※1	12(14)	256(174)	268(188)
B 葛尾村に一度でも来訪したことがある人数 ※2	26(34)	605(340)	631(374)
C 葛尾村および本事業の取り組みに関心のある人数 ※3	452(142)	1,010(546)	1,462(688)

()内は2023年度参考値

※1 関係人口は、本事業の取り組みによって実際に葛尾村に複数回来訪した人数を指す。なお、関東地方でのイベントのみの来訪者は含まない。

※2 Aの人数に、1度のみ葛尾村に来訪した人数を加えたもの

※3 Bの人数に、1度も葛尾村に来訪したことがないが、SNSで「こんにちはかつらお」や「Katsurao Collective」の公式アカウントをフォローしている人数を加えたもの

関係人口への情報発信について

1. で集計した人数に対する情報発信として、メールによるニュースレターの配信を行った。メール配信は、SNSでのプル型発信のみでは情報の見逃しが懸念されることから、ターゲットに直接的にアプローチするプッシュ型発信の手法として採用した。プッシュ型発信の手法の中でも、LINE公式アカウントによる発信やFacebookグループでの発信に比べて、世代や属性を問わず利用率が高いと見込まれることから、メール配信を手法として選定した。配信にあたっては、プライバシーポリシーに同意の上収集したメールアドレスのうち、Katsurao Collectiveからの情報発信を希望すると意思表示があった相手先に加えて、WEB経由で「Katsurao Collective Newsletter ご登録フォーム」に申込があった相手先を対象とした。

配信日	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配信数	40	41	46	49	49	56	59	70	69	69	548

(4) 移住・定住に向けた支援

(4)ーア 移住や訪問を希望するアーティスト・クリエイターへのヒアリング及び地域とのマッチング等の支援を行う。

随時実施

(4)ーイ 村に興味を持ったアーティスト等に対して移住等に関する調査を行う。

移住促進のためのPRイベントの実施および参加

実施日	内容	会場	来場者(視聴者、作家、スタッフ含む)
6/16	あぜりあ市ブース参加	あぜりあ	113
7/6	移住フェア参加	東京交通会館 (有楽町)	6
8/3	移住フェア参加	東京交通会館 (有楽町)	12
8/3	標葉祭り参加	みどり荘	91
8月	夏祭りブース出店	あぜりあ	110
9月	移住フェア	東京国際フォーラム (有楽町)	26
11/3	かつらお感謝祭出店予定	かつらお感謝祭	172
11/9	移住フェア	東京交通会館	5
12/7、8	移住フェア	都内	26
1/15、2/4	TOKAS AIRイベントに参加してPR	都内	8
1/27	白石蔵王レジデンス、トークイベントに参加してのPR	都内	20
合計			<u>589</u>

5 事業の成果および運営の課題

【事業全体について】

・事業計画に則り、2022年度、2023年度は、移住希望者に向けた地域イメージの構築、発信を目的として実施した。2024年度は対外的なPRの強化に努めた。

・当事業は物産展等の地方創生や復興とは異なる文脈で、目黒や渋谷、横浜といった首都圏の中心地に葛尾村のコンテンツをアピールできる数少ない事業形態である。

・参加者からの事業評価は概ね良好であり、「葛尾＝アートの村」「この事業で葛尾の名前を初めて知った」「葛尾に初めて来た」という感想を多数いただいている。

・多数の専門家からの視察を受け入れている。専門家、研究者からも、国内で有数の事例として評価されている。

・レジデンス事業以外でも、一般のスタジオ利用希望者や短期滞在者も出てきており、事業の目的を達成しつつある。

・アーティストのファンだけではなく、近隣地域のライトな関心層に届く情報発信（SNSやイベント情報のローコンテクスト化や「スキコム」で作家の人となりを取り上げる等の展開）が効いて、これまでは来場に至らなかった層が足を運ぶようになってきている。

・AIR公募には5倍を超える倍率のなるほどの参加応募が集まり、葛尾村でのアートの取り組みについて認識され、アーティストが活動したい場所の一つの候補として考えられはじめている。また、AIRアーティストの募集には海外からの問い合わせが多数あり、当事業の国内外からの注目度の高さが伺える。

・昨年度から引き続き、経産省が主体となって行っている12市町村に全国のアーティストの滞在を推奨する動きが全国的に認知され始めている。葛尾村はその中心的地域の一つとして、全国的に認知が広がってきている。

・23年度に実施していた復興交流館あぜりあでの展示イベントを、常設展示（集計外）としたこと、都内PR展示の期間および会場が変更になったこと、イベントの開催日程を短くし代わりにワークショップなど複数のイベント時期が重なるように調整したことにより、イベント来場者総数は減っている。一方で、1日あたりのイベント来場者はAIRプログラムは増え、かつらお企画室事業は維持している。

来場者数の推移

	イベント来場者（AIR）	ワークショップ参加者	復興交流館あぜりあ常設タイプの展示	県外PRイベント
2022年	562	67	3543	—
2023年	609	369	6889	2879
2024年	1315	133	896	1651

1日あたりの来場者推移

	イベント来場者（AIR）	ワークショップ参加者	復興交流館あぜりあ常設タイプの企画	県外PRイベント
2022年	27.70	11.17	111.40	—
2023年	16.17	23.06	58.65	92.14
2024年	58.13	22.17	57.09	54.40

【課題】

・外部からの事業評価は、一般来場者、専門家ともに概ね良好であり、移住事業としての目的は達成しつつある状況である一方、村内にアート事業以外に紹介できるスポットは限られている。来村者、移住候補者が地域に魅力を感じるようなお店やコンテンツの発掘、開発が急務である。

・休日に村内店舗や伝習館が開館しておらず、村のアピールに繋がらない状況がある。

・村への公共機関でのアクセスが困難である。

【地域との連携について】

・昨年から引き続き、アーティストの滞在を地域が歓迎するムードができつつある状況である。

・地域事業者、住民からの、イベント参加の依頼が増えている。積極的な事業連携ができ始めている。結果として、地域の祭りへの出店や、ワークショップを開催し、多くの村民の方とアーティストのふれあいが実現した。

・幼稚園でのワークショップや、小中学生との交流活動を行った。村内の幅広い年代の村民と交流ができ、アートを通じた教育などの提案をすることができた。

・昨年度は村内の協力先が一部に偏ってしまっている状況があった。アーティストの滞在期間を長く取ることによって、村民の方との接点をつくる時間ができ、協力いただける村民の方が増えた。

【広報について】

・事業に合わせて、AIR通年チラシ1種、村内イベント開催案内チラシ2種、都内展示企画チラシ2種等を作成した。チラシは葛尾村内や中通り・浜通りの各施設、東北地方・北関東地域(都内での企画に関しては首都圏)の文化施設等に郵送し配布依頼を行ったほか、村内で開催されたイベントや村外への営業活動時に直接手渡しして、周知・広報に努めた。

・週に1度以上のSNS情報発信を行い、いずれのプラットフォーム上でも新規フォロワーを継続的に獲得している。継続することで効果を発揮するSNSの特性上、長期的、継続的に発信していくことでコンテンツの発信力が高まっている状況がある。

・Facebookは30代～40代、Instagramは20～30代のフォロワーが最も多く、投稿内容が目標となるターゲット層にアプローチできている。

・発信内容の充実のために企画したメディア「スキコム」では、アーティストインタビューやトークイベントのレポート記事等を投稿し、ピックアップしたアーティストが個人のSNSアカウントでシェアすることで、葛尾村での具体的な活動の内容を拡散している。

・特にターゲットのボリュームが大きい村外でのイベントについて、イベントサイトへの掲載など、アーティストのファン層だけではなく、現代美術や地域社会への関心層にリーチする必要がある。

・県内の主要マスメディアへの周知は概ね完了した。今後はこれまでと同じ企画では新規性が訴求しにくいいため、既存の見せ方やネットワークに囚われない効果的なメディア露出の方法を検討する必要がある。

【移住への課題】

・本来は移住・定住促進事業として「移住者数」を事業成果と考えるところであるが、住宅の整備や移住希望者の受け入れ体制等に課題があり、本事業の成果を実際の移住・定住につなげる上では多くのハードルが依然として存在している。

・案内できる住居の候補がいまだに不足している状況である。実際にクリエイター2名が、物件の選択肢がなく近隣自治体への移住となっている。